肝臓大学新聞

第35号

令和8年10月発行

MASHの治療薬の登場

（1）MASHとは

従来、肝細胞の3分の1以上に脂肪がたまっている状態を脂肪肝と呼んでいましたが、最近は5%以上の肝細胞に脂肪がたまっていれば脂肪肝と診断しています。脂肪肝というと「お酒の飲み過ぎが原因では?」と思う人も多いのではないでしょうか。

しかし実は、飲酒量の多くない人(日本酒換算で1合／1日以下)、あるいは全く飲まない人でも、脂肪肝になる人がたくさんいます。国内では、お酒をあまり飲まないのに脂肪肝になる患者さんは2000万人以上にものぼると推定されています。こうした患者さんのうち約20%の人は、脂肪肝と同時に肝組織に炎症、線維化を起こし、MASH(マッシュ／代謝機能障害関連脂肪肝炎：Metabolic dysfunction Associated Steatohepatitis)と呼ばれる状態になっています。

（2）MASHの治療とは

従来、MASHの治療はBMIが高値であれば、食事運動療法による減量が中心でした、一般的に5%の体重減少で、肝脂肪化の軽減、7%の減量で炎症の軽減、さらに10%の減量で肝線維化の改善が期待されますが、なかなか減量は難しいもので目標の達成率は高くはありません。MASHそのものに対する治療薬はなく、併存する糖尿病、高脂血症、高血圧などの代謝関連障害を改善する薬剤を併用し、ALT値を正常化させることがおこなわれておりました。

（3）MASHの新薬の登場

ウゴービ®は、GLP-1というホルモンの受容体に作用する週1回の皮下注射薬です。従来は糖尿病治療薬として使用され、食欲やエネルギー摂取を調節して体重減少を促すとともに、血糖や脂質などの代謝状態を改善します。MASH患者を対象とした臨床試験では、MASHおよび肝線維化を改善する効果が示されています。

肝線維化の改善は発癌や肝機能の維持改善に重要であり、線維化を改善する薬剤の登場はMASHに対する国内初の治療薬といえます。

1. MASHと診断された方
2. 肝硬変を伴っていない方
3. 肝線維化が中等度または高度に進んでいる方(肝線維化ステージF2またはF3)
4. 原則としてBMI 23kg/m^{2}以上の方
5. 医師がウゴービ®による治療が適切と判断した方

ウゴービ®によるMASH治療では、肝線維化が中等度または高度（F2またはF3）であることを確認する必要があります。評価は原則として「肝生検」で確認することとされていますが、実施が難しい場合や同意が難しい場合には、肝硬度測定を含むエコー検査や血液検査などの身体に負担の少ない検査を組み合わせて総合的に評価します。これらの検査結果に、診察所見、糖尿病や肥満などの代謝関連因子、画像所見を加え、消化器病専門医または肝臓専門医が総合的に肝線維化の程度を判断します。薬剤の使用に関しても専門施設と定められておりますので、減量が困難で進行MASHと診断された方は是非、ご相談ください。

（文責　佐藤　亘）